

4 世界遺産の登録基準への該当性

(1) 資産の適用種別

遺跡

(2) 世界文化遺産の登録基準の番号

)、)

)について、縄文文化は、自然と共生し、1万年間もの長きにわたり繁栄、成熟した定住的な採集、狩猟、漁労文化であり、その具体的な証が考古学的遺跡の縄文遺跡である。日本の歴史の大半を占め、現代の生活や文化の基礎となったことから、日本の基層文化と考えられる。北海道・北東北では、縄文文化を育んだ植生環境が現在でも良好な状態で保全されているとともに、現代の生業や精神活動の中にも自然と共生した縄文文化の伝統である有形、無形の文化的要素が数多く見られる。

)について、竪穴建物は、縄文文化を代表する半地下式の建物構造である。日本列島においては縄文時代以降、近世初頭まで継続して見られ、日本の風土に適した建物構造の典型的な見本である。また、掘立柱建物は、縄文時代に成立し、その後の高床構造の大型建物等の技術的規範となったものと考えられる。集落では、居住や生業活動に適した土地を意図的に選地し、住居、墓地、祭祀空間、貯蔵施設、捨て場、道路などを計画的に配置しており、土地利用の社会的規制が見られ、これらは後世の都市計画に繋がる土地利用の萌芽と思われる。さらに、集落やその周辺には、食料などの有用資源の維持・管理を目的とした人為的な生態系が成立していることが明らかとなっており、能動的な植生環境の整備は後世の里山の成立に大きな影響を与えたものと考えられる。

(3) 真実性及び完全性の証明

本資産の個別要素である遺跡は、発掘調査により遺跡の時代や内容が把握されており、地下遺構や遺物が良好な状態で広範囲にわたり保存されていることが明らかとなっている。これらは、我が国の歴史と文化の成り立ちを考える上で極めて重要であることから、文化財保護法により特別史跡及び史跡に指定され、適切な保存、整備、活用が行われている。

本資産は、所在する土地と一体となった地下遺構を主な対象とするものであり、地下に埋蔵されている遺構の表示方法のひとつである復元建物等は真実性を証明する対象とはしない。ただし、復元建物等についても、資産の環境を構成する重要な要素であり、発掘調査の所見や出土品等の科学的分析結果を基に、当時と同じ樹種・素材・材料を使用し、意匠についても考古学、民族学、建築史等の専門家による学術的な検討結果を踏まえて、整備された信頼性の高いものである。

資産が所在する北海道・北東北は、縄文文化を代表する縄文時代前期の円筒土器文化、後期の十腰内式土器文化、晩期の亀ヶ岡式土器文化などが繁栄した中心地域である。当該地域の縄文文化には、縄文文化の起源を示す最古の土器の誕生、生業活動に係る土器や道具類の発達、漆工芸や製塩活動の出現、拠点集落や大規模記念物の成立、精神性の高さを示す出土品の豊富さなど、多くの特徴が認められるとともに、列島における遠方地域にも大きな影響を与えた。さらに、津軽海峡を挟んだ当該地域は縄文時代以降においても共通の文化圏を形成し、現代においても縄文文化の系譜を引く多くの文化的要素が認められる。

資産及び資産周辺にはクリ、クルミ、漆などの落葉広葉樹から構成される縄文里山と呼ぶべき典型的な縄文時代の植生環境が保全されており、資産とその環境が一体的に形成する考古学的景観が成立している。当該地域は縄文時代の特別史跡3遺跡のうち2遺跡を始め、縄文文化を代表する遺跡が数多く保存され、縄文文化の様相や変遷、さらには、我が国の歴史や文化の成り立ちを知る上で欠かすことのできない重要な地域となっている。また、地域住民の縄文文化に関する興味関心や文化財保護意識が高く、遺跡の整備や活用が積極的に行わ

れ、地域住民や国民の、我が国の歴史についての正しい理解の向上に大きく貢献している。

よって、北海道・北東北の縄文遺跡群には縄文文化の特徴が顕在化しており、我が国の歴史はもとより、人類史における狩猟採集社会の成熟した様相を顕著に物語るもので、世界遺産としてふさわしい価値を持つものである。

なお、今後の調査、研究の進展によっては資産の範囲や種類等が増えることが予想されることから、その際においても適切な保護、保存を図ることによって、真実性と完全性について十分に担保するものである。

(時期区分別・種類別資産構成一覧表)

時代区分	集落遺跡		貝 塚		環状列石	低湿地遺跡	そ の 他
草創期							大平山元 遺跡
早 期			長七谷地貝塚				
前 期	三内丸山遺跡		入江貝塚	二ツ森貝塚	北黄金貝塚 田小屋野貝塚		
中 期		大船遺跡 御所野遺跡					
後 期			高砂貝塚		鷲ノ木遺跡 小牧野遺跡 大湯環状列石 伊勢堂岱遺跡		
晩 期						是川石器時代遺跡 亀ヶ岡石器時代遺跡	

(4) 類似資産との比較

既登録の類似資産としては、縄文文化と同時代の遺跡では「バン・チャンの古代遺跡」(タイ)、「オークニー諸島の新石器時代遺跡の中心地」(イギリス)などがあり、縄文遺跡と同様に地下に埋没している遺跡としては「ランス・オ・メドー国定遺跡」(カナダ)、「スカングアイ」(カナダ)などがあるが、極めて数が少ない。今後、これらの既登録遺産との詳細な比較研究を行うこととする。

なお、「北海道・北東北の縄文遺跡群」は先史時代の遺産であり、かつ遺跡とその環境が一体となった考古学的景観であることから、グローバル・ストラテジーの趣旨に沿うものであり、登録を進めるべき種別の資産と考えられる。